

第2章



子どもと子育て家庭を 取り巻く現状

1 人口等の動向

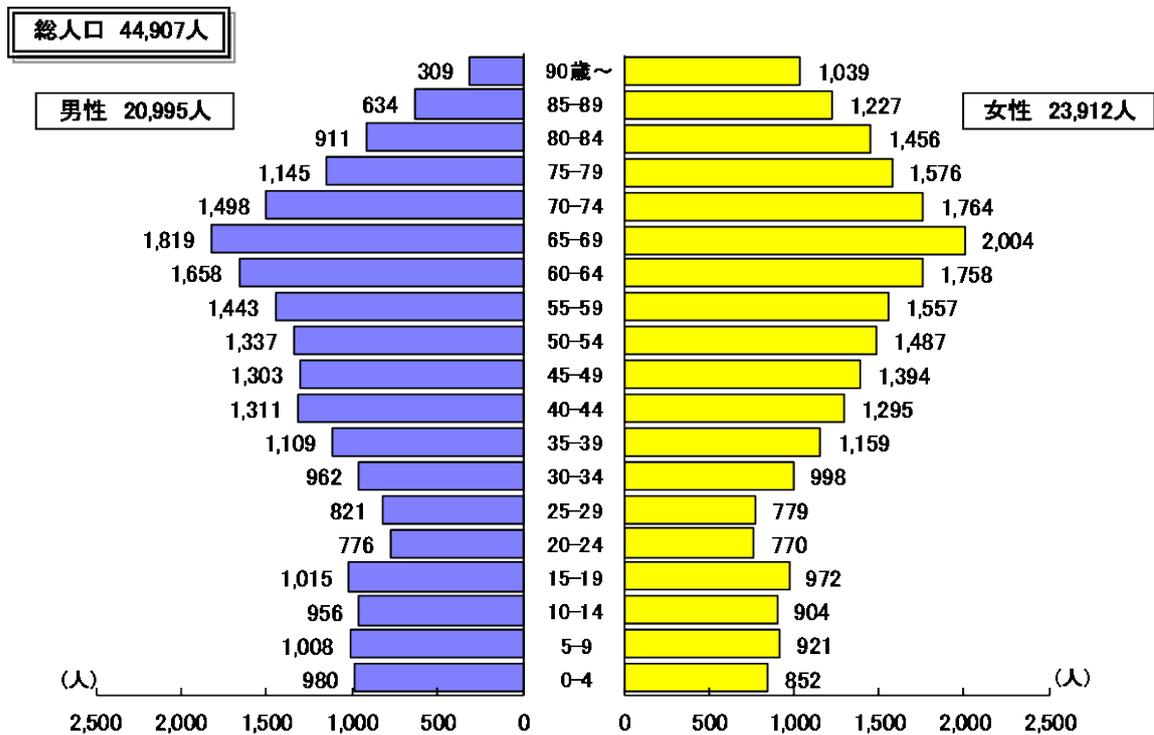
(1) 人口の推移

①人口ピラミッド

本市の平成31年4月1日現在の総人口は、男性20,995人、女性23,912人の計44,907人です。人口ピラミッドを見ると、団塊の世代といわれる60代後半の人口が最も多く、35歳未満の若い世代の人口が少なくなっていることがわかります。

また、現在の30代に比べ、これから婚姻適齢期を迎える20代の人口が少ないことから、今後さらに少子化が進むことが懸念されます。

■人口ピラミッド（平成31年4月1日現在）



資料:住民基本台帳

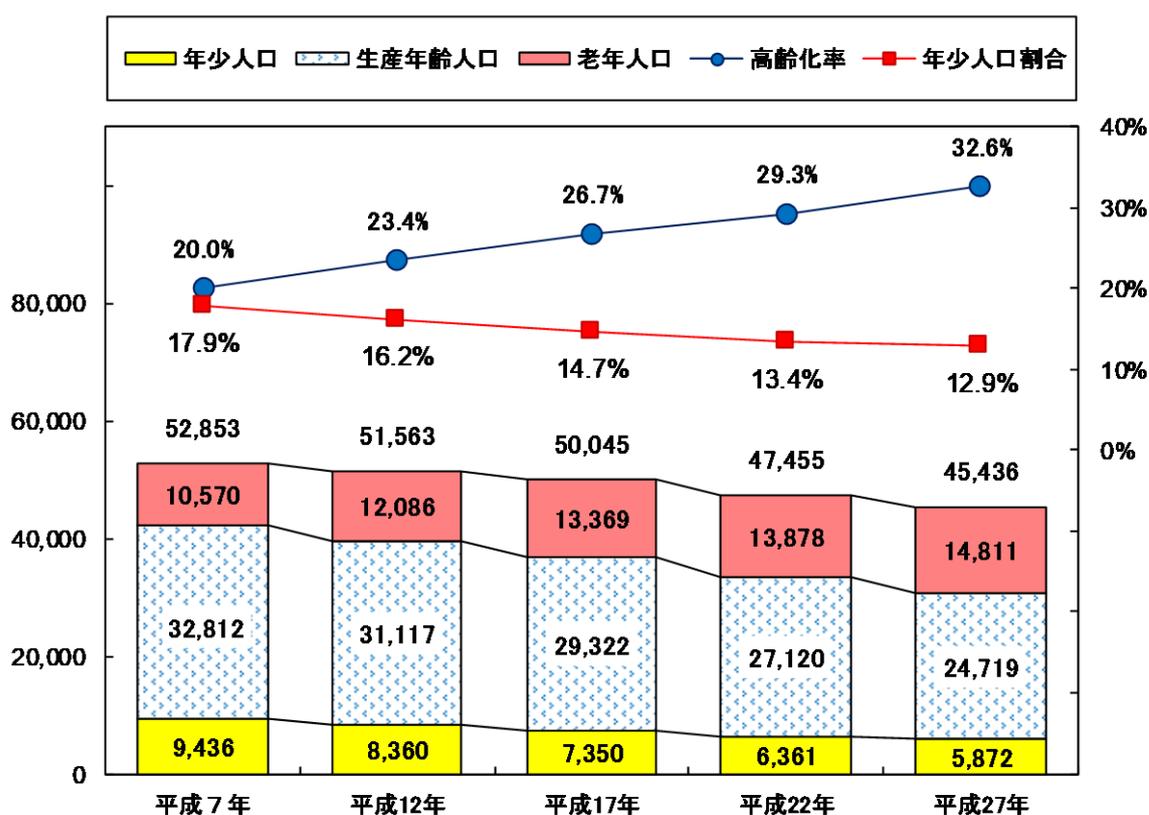
②年齢3区分別人口及び年少人口割合等の推移

人口の推移を見ると、平成7年以降、総人口は減少傾向にあります。

年齢3区分別に見ると、年少人口（15歳未満）と生産年齢人口（15歳以上65歳未満）が減少を続けているのに対し、高齢者人口（65歳以上）は増加し続けていることから、少子高齢化が確実に進んでいる状況がうかがえます。

また、少子高齢化の進展に伴い、総人口に占める年少人口割合は低下、高齢化率は上昇を続けています。

■年齢3区分別人口及び年少人口割合等の推移



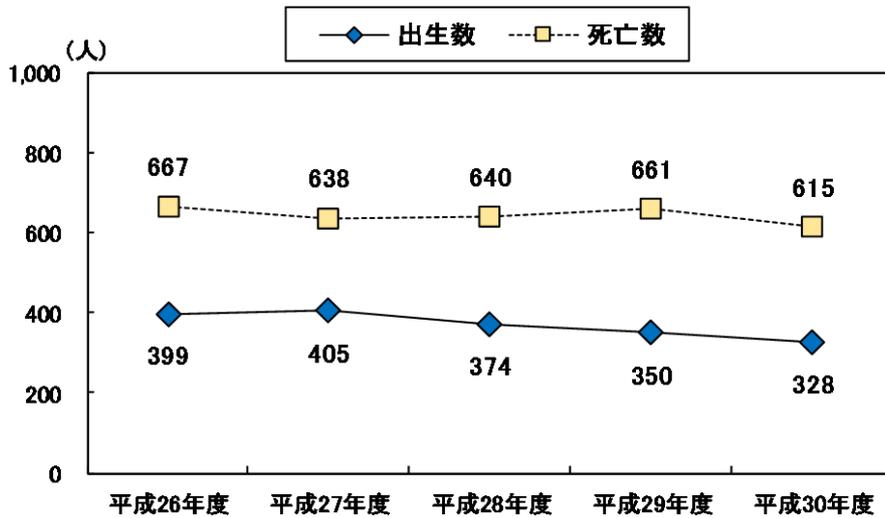
※総人口には年齢不詳人口を含む

資料：国勢調査（各年10月1日現在）

③自然動態—出生数と死亡数の推移—

平成26年度以降の出生数、死亡数の推移は以下のとおりで、毎年度、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いています。平成30年度は、出生数328人に対し死亡数615人で、287人の自然減となっています。

■出生数と死亡数の推移

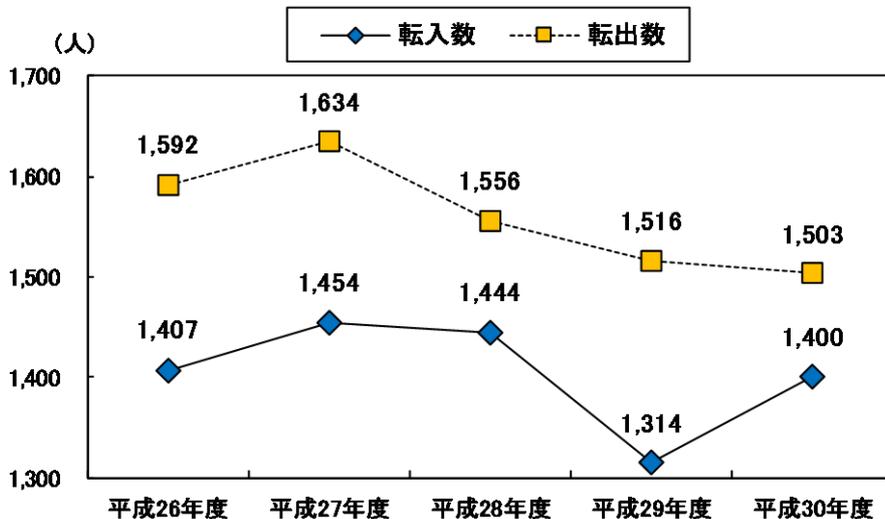


資料：住民基本台帳

④社会動態—転入数と転出数の推移—

平成26年度以降の転入数、転出数の推移は以下のとおりで、毎年度、転出数が転入数を上回る自然減の状態が続いています。平成30年度は、転入数1,400人に対し転出数1,503人で、103人の社会減となっています。

■転入数と転出数の推移

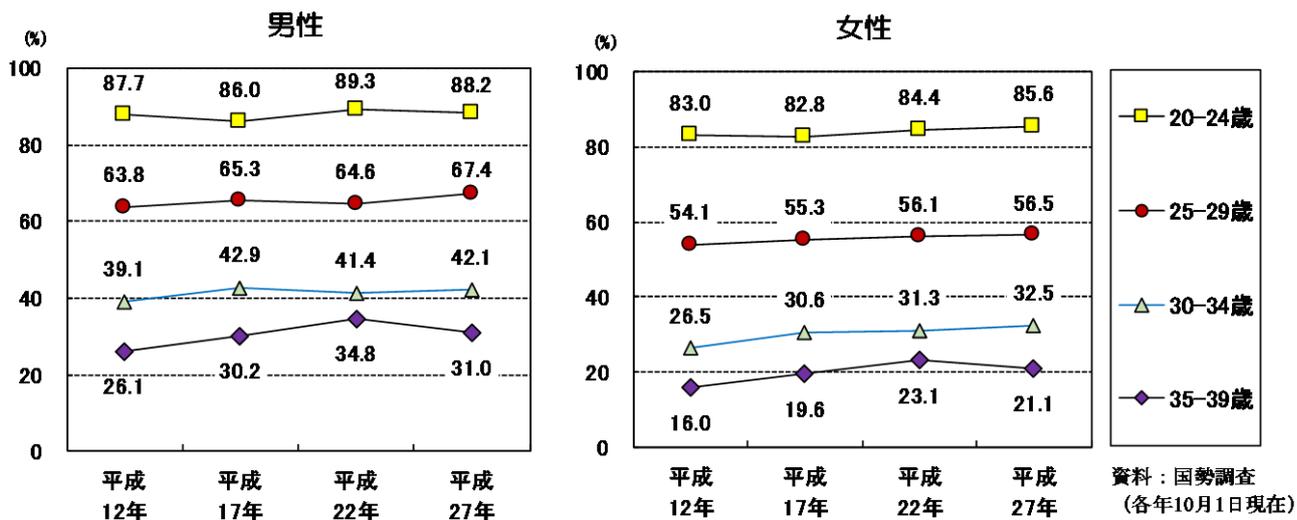


資料：住民基本台帳

(2) 未婚率の推移

20～39歳の男女の未婚率の推移を5歳階層別に見ると、男女とも平成22年から27年にかけて35～39歳の未婚率は低下しており、非婚化の傾向にはやや歯止めがかかった感があります。しかし、30代前半までの未婚率は上昇ないし横ばい傾向が続いており、依然として晩婚化の傾向が続いていることがうかがわれます。

■未婚率の推移



2 世帯数の推移

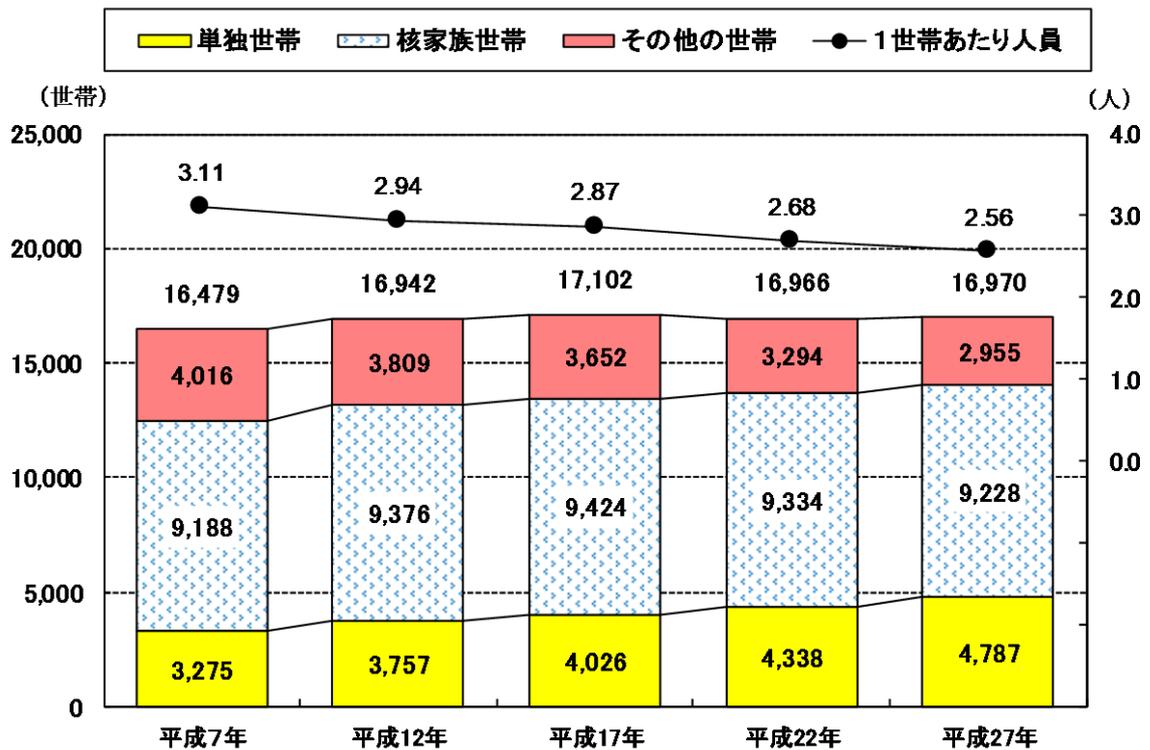
平成7年からの20年間の一般世帯数（総世帯数から施設等の世帯数を除いたもの）の推移は下図のとおりで、平成17年までは増加していましたが、その後やや減少し、横ばいの状態が続いています。

単独世帯の増加は続いています。平成17年まで増加していた核家族世帯はその後減少に転じており、三世帯家族等その他の世帯は平成7年以降減少が続いています。

また、単独世帯の増加、三世帯家族等その他の世帯の減少により、1世帯あたりの人員数は減少が続いており、平成27年は2.56人となっています。

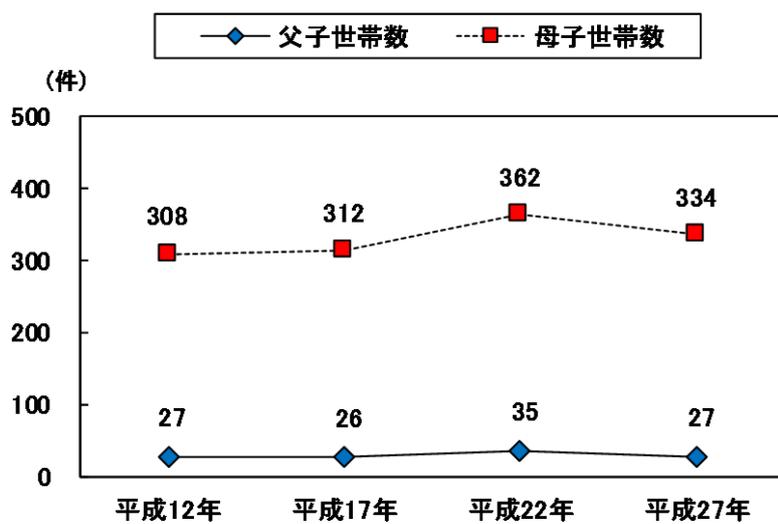
なお、平成7年以降増加傾向にあった母子世帯数は、平成22年から27年にかけてやや減少に転じており、父子世帯数はほぼ横ばい傾向にあります。

■一般世帯数の推移



資料：国勢調査(各年10月1日現在)

■母子・父子世帯数の推移



資料:国勢調査(各年10月1日現在)



3 就労環境

(1) 女性の年齢階層別労働力率*

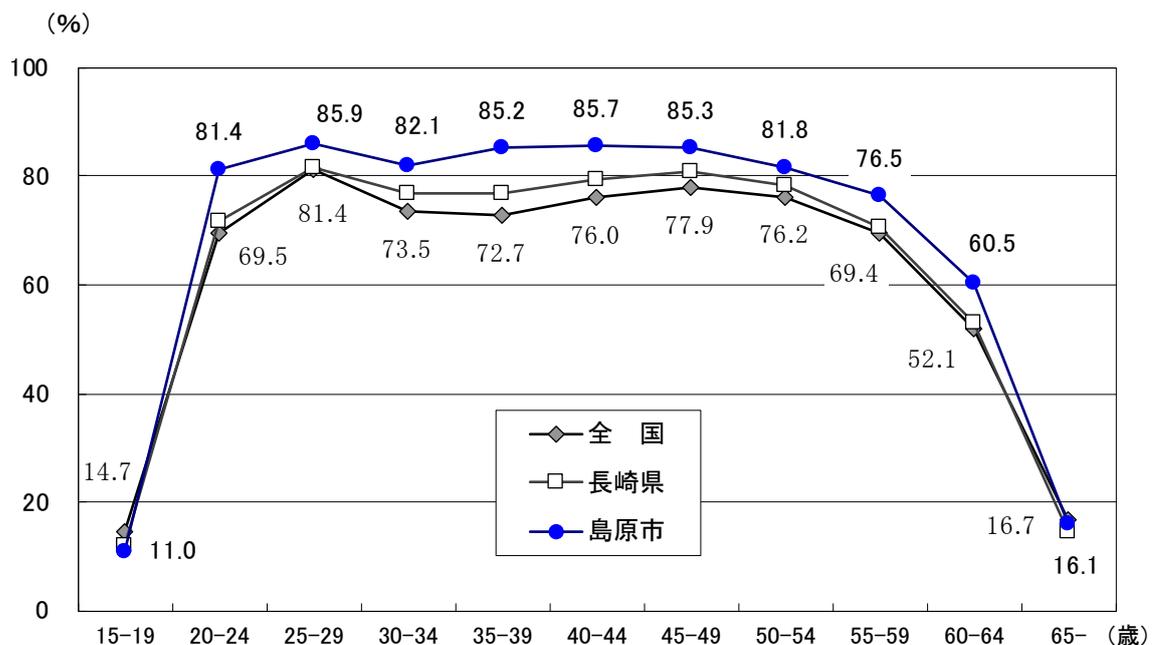
我が国の女性の労働力率を年齢階層別にグラフ化すると、下の国・県のグラフに見られるようないわゆる「M字カーブ」を描くのが一般的です。30代前半での労働力率の低下は、出産や育児による就労率の減少を、30代後半からの増加は、再就職等による就労率の上昇を示していると考えられます。

しかし、本市の「M字カーブ」は30代前半での落ち込みが小さく、国・県に比べるとなめらかなM字となっており、出産後も仕事を続ける女性の割合が高いことがうかがえます。また、30代後半から40代後半までの労働力率は、国・県の数値はもとより、20代後半の労働力率とほぼ同じ水準となっています。

働きたい女性が家庭生活と職業生活を両立し、結婚、出産、育児期にも継続して働くことができる状況はそれ自体望ましいことですが、一方で、子育てに伴う経済的な負担の大きさが働かざるを得ない状況を生み出し、それが高い労働力率につながっている可能性も考えられます。

※労働力率：人口に占める労働力人口（就業者＋完全失業者）の割合

■女性の年齢階層別労働力率（国・県との比較）



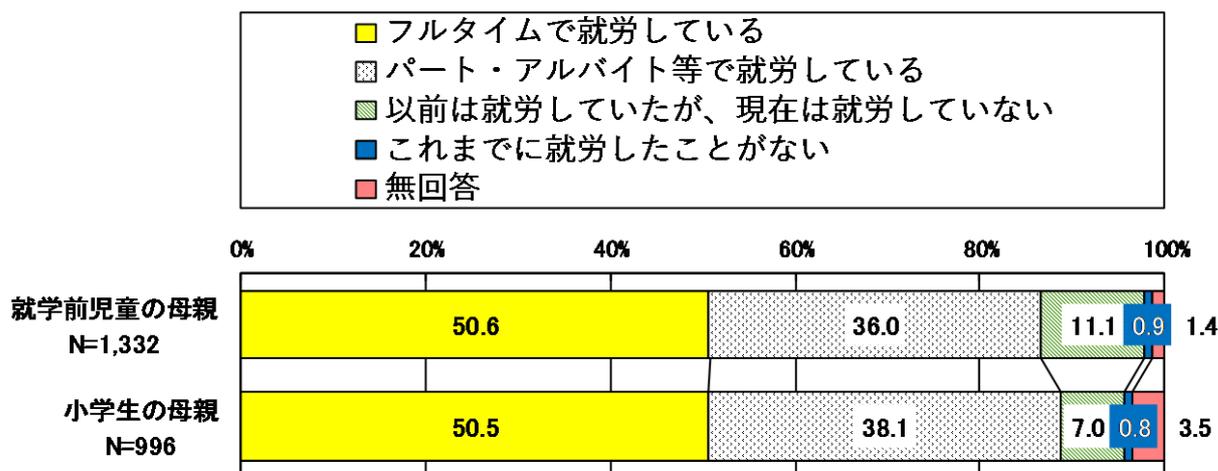
資料：国勢調査（平成27年10月1日現在）

(2) 母親の就労状況

アンケート調査の結果から母親の就労状況を見ると、就学前児童の母親で86.6%、小学生の母親で88.6%の人が働いており、母親が就労している割合は高くなっています。

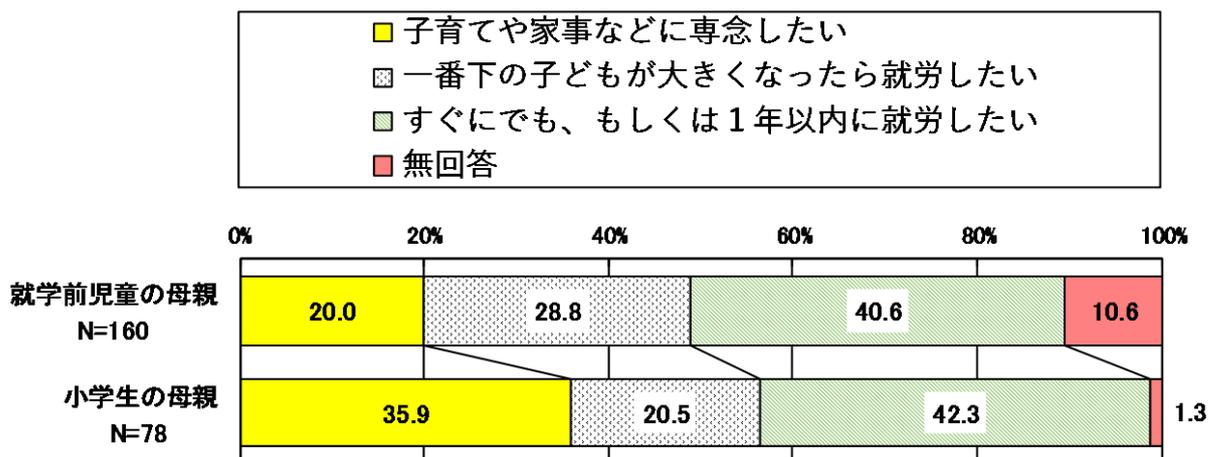
また、現在就労していない母親についても、その多くが「すぐにでも、もしくは1年以内に」又は「一番下の子どもが大きくなったら」就労したいと考えていることがわかります。

■母親の就労状況



資料：アンケート調査結果

■現在働いていない母親の就労希望



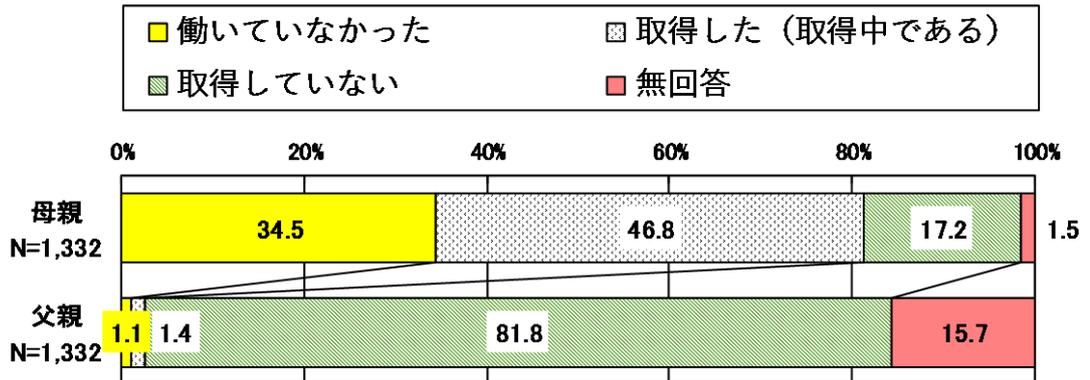
資料：アンケート調査結果

(3) 育児休業の取得状況

アンケート調査の結果から、就学前児童の保護者の育児休業の取得状況を見ると、「取得した（取得中である）」と回答した人は、母親で 46.8%（働いていなかった人と無回答を除くと 73.2%）、父親で 1.4%（働いていなかった人と無回答を除くと 1.6%）となっており、父親の取得は極めて低調であることがわかります。

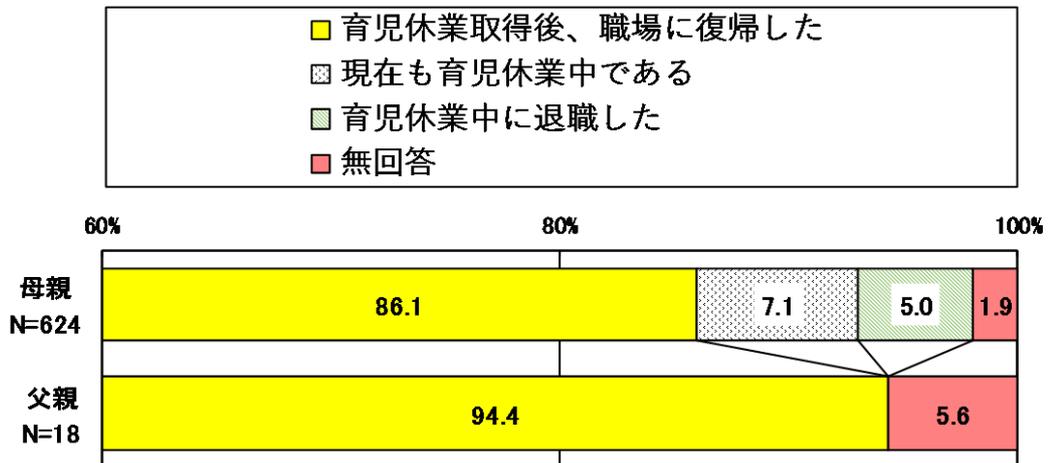
また、母親の中には、育児休業中に退職した人（5.0%）も見られます。

■ 育児休業の就労状況（就学前児童の保護者）



資料：アンケート調査結果

■ 育児休業取得後の職場復帰状況（育児休業取得者）



資料：アンケート調査結果

4 教育・保育の現状

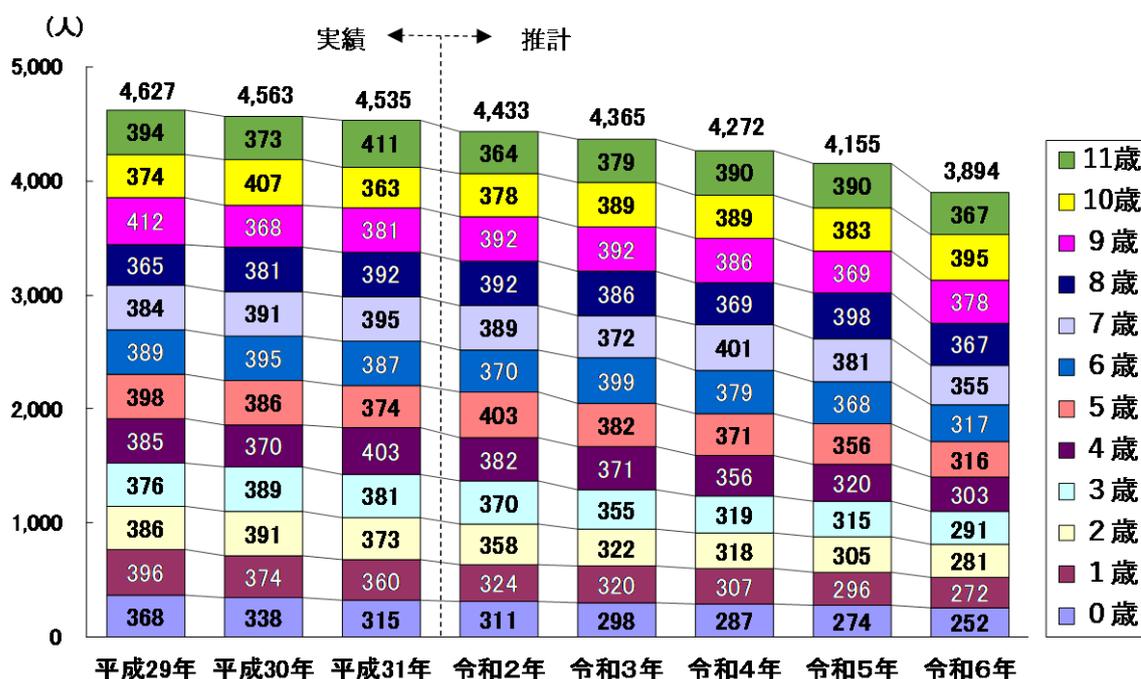
(1) 児童数の推移

本市の教育・保育の主な対象となる11歳以下の児童数は、近年減少傾向にあり、平成31年4月1日現在の就学前児童（0～5歳）数は2,206人、小学生（6～11歳）は2,329人となっています。

また、平成28～31年の住民基本台帳人口を基にコーホート変化率法※を用いて行った人口推計においても、この傾向は続き、計画期間を通してさらなる児童数の減少が見込まれます。

※コーホート変化率法：ここでいう「コーホート」とは、同じ年（または同じ期間）に生まれた人々の集団のことを指し、「コーホート変化率法」とは、各コーホートについて、過去における実績人口の動勢から変化率を求め、それに基づき将来人口を推計する方法。

■ 11歳以下の児童数の推移と推計（各年4月1日現在）



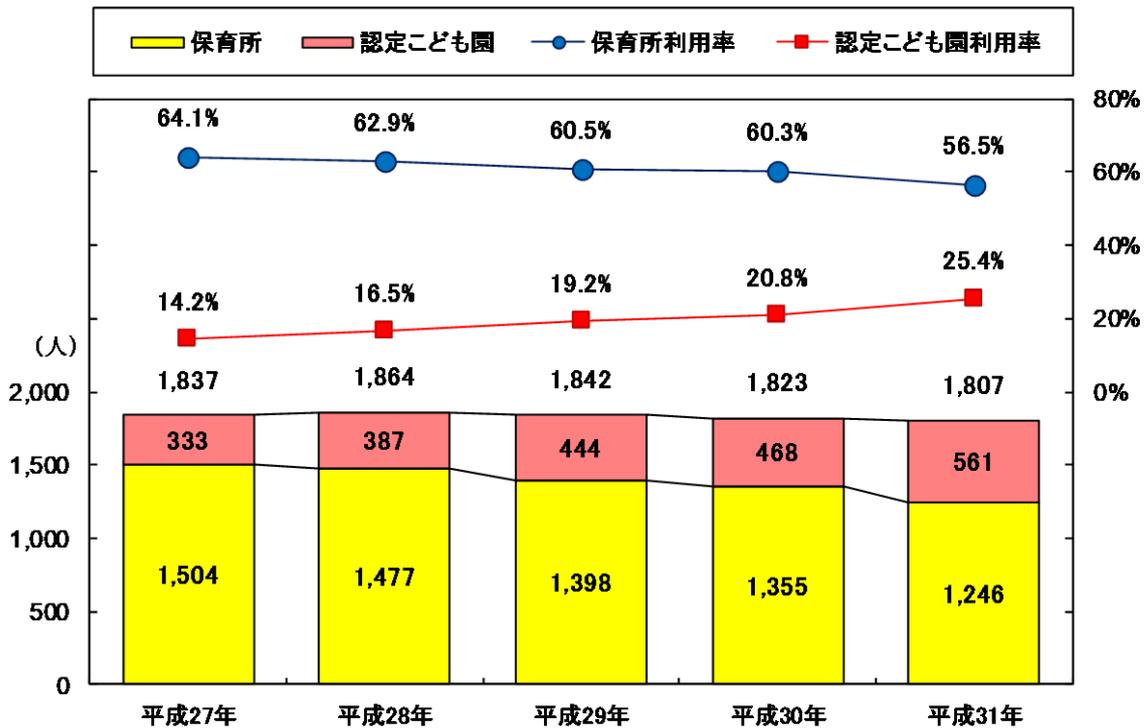
資料:住民基本台帳(令和2年以降はコーホート変化率法に基づく推計人口)

(2) 保育所・認定こども園の状況

平成31年4月1日現在、市内には保育所が20施設、認定こども園が6施設あり、総利用定員は保育所1,320人、認定こども園659人、合わせて1,979人となっています。

前計画期間中の本市在住児童にかかる利用状況は以下のとおりで、市外の施設も含め、全体で毎年1,800人を超える就学前児童がいずれかの施設を利用しており、平成31年の利用者数は就学前児童の81.9%を占めています。

■保育所・認定こども園の利用状況（各年4月1日現在）



※利用率は就学前児童数に占める利用者割合

資料：島原市子ども課

保育所・認定こども園の利用状況（各年4月1日現在）

(単位:人)

区分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	
保育所	市内	1,460	1,439	1,356	1,306	1,192
	市外	44	38	42	49	54
	計	1,504	1,477	1,398	1,355	1,246
認定こども園	市内	313	371	426	448	545
	市外	20	16	18	20	16
	計	333	387	444	468	561
合計	1,837	1,864	1,842	1,823	1,807	
就学前児童数	2,347	2,349	2,309	2,248	2,206	
総利用者数割合	78.3%	79.4%	79.8%	81.1%	81.9%	

資料：島原市子ども課

市内の保育所・認定こども園の概要（平成31年4月1日現在）

施設区分	施設名	開所時間	延長保育	一時預かり保育	地域子育て支援拠点事業	放課後児童健全育成事業（学童）	病後児保育	利用定員	入所児童数	平成31年充足率
保育所	向陵保育園	7:00～19:00	○					70	62	88.6%
	みやま保育園	7:00～19:00	○					40	35	87.5%
	東向保育園	7:00～19:00	○	○				40	37	92.5%
	恵祥保育園	7:00～19:00	○	○		○	○	60	52	86.7%
	心香保育園	7:00～19:00	○	○	○			100	96	96.0%
	誓願幼児園	7:00～19:00						60	60	100.0%
	桜花保育園	7:00～19:00	○	○				40	38	95.0%
	おさなご園	7:00～19:00	○	○	○	○	○	100	84	84.0%
	山寺保育園	7:00～19:00	○	○				60	60	100.0%
	たけしま保育園	7:00～19:00	○	○		○		110	94	85.5%
	愛児保育園	7:00～19:00	○					60	60	100.0%
	春陽保育園	7:00～19:00	○	○	○	○		110	110	100.0%
	寺町保育園	7:00～19:00	○					40	36	90.0%
	こひつじ保育園	7:00～19:00	○	○		○		60	58	96.7%
	わかかさ園保育所	7:00～20:00	○	○	○	○	○	90	85	94.4%
	美祿保育園	7:00～18:00						30	15	50.0%
	中木場保育園	7:00～19:00	○	○		○		70	70	100.0%
	安徳保育園	7:00～18:30	○	○				90	89	98.9%
	浦田保育園	7:00～19:00	○					40	33	82.5%
	白山保育園	7:00～19:00	○	○		○		50	49	98.0%
計								1,320	1,223	92.7%
認定こども園	ありあけ幼稚園	8:00～18:30						89	77	86.5%
	勝光幼稚園	7:00～19:00						50	46	92.0%
	ひかわ第一幼稚園	9:00～17:00		○		○		175	140	80.0%
	清華こども園	7:00～19:00	○	○	○	○		90	81	90.0%
	島原幼稚園	7:30～18:30				○		150	121	80.7%
	みどり保育園	7:00～19:00	○	○	○	○		105	95	90.5%
計								659	560	85.0%

※入所児童数には市外からの受け入れ児童を含む

資料：島原市こども課

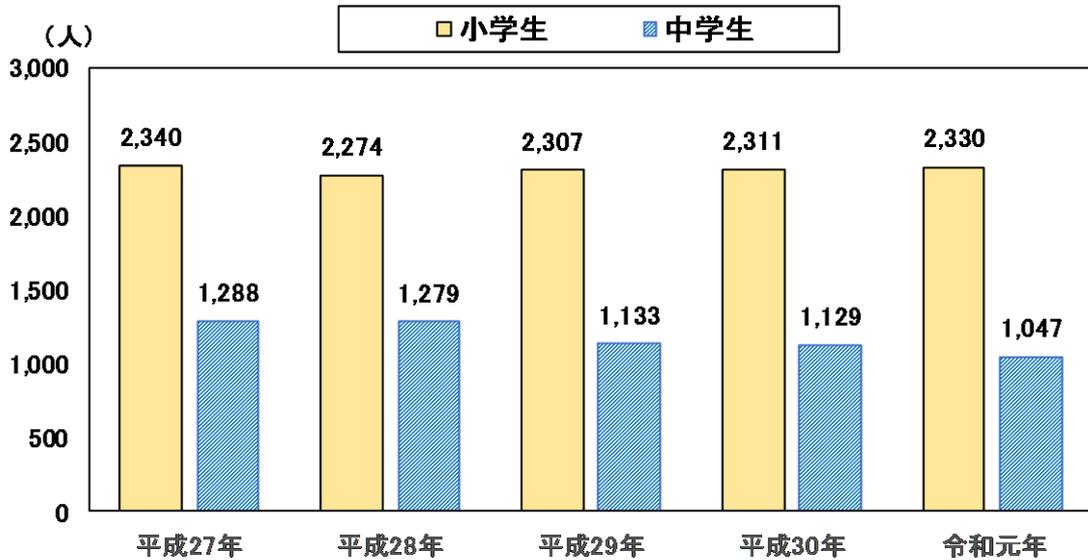
※各園の実施事業について…上の表には地域子ども・子育て支援事業として実施している園について○を入れていますが、自主事業として実施している園もあります。

(3) 小中学校の児童生徒数の状況

本市には、小学校が9校（分校1校）、中学校が5校あります。

平成27年以降の小学校児童数は横ばい、中学校生徒数はやや減少傾向にあり、令和元年5月1日現在の小学生は2,330人、中学生は1,047人となっています。

■小中学校児童生徒数の推移（各年5月1日現在）



資料：島原市学校教育課

各小中学校の児童生徒数の推移（各年5月1日現在）

区 分		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
小 学 校	第一小学校	454	456	463	491	495
	第二小学校	237	231	230	229	241
	第三小学校	285	265	283	271	277
	第四小学校	189	202	203	202	205
	第五小学校	338	318	314	326	323
	三会小学校	262	254	269	259	253
	長貫分校	12	12	14	16	14
	大三東小学校	238	236	232	232	237
	湯江小学校	243	225	226	215	213
	高野小学校	82	75	73	70	72
合 計	2,340	2,274	2,307	2,311	2,330	
中 学 校	第一中学校	366	373	355	377	351
	第二中学校	245	238	187	189	168
	第三中学校	190	188	158	156	151
	三会中学校	138	124	110	116	120
	有明中学校	349	356	323	291	257
	合 計	1,288	1,279	1,133	1,129	1,047

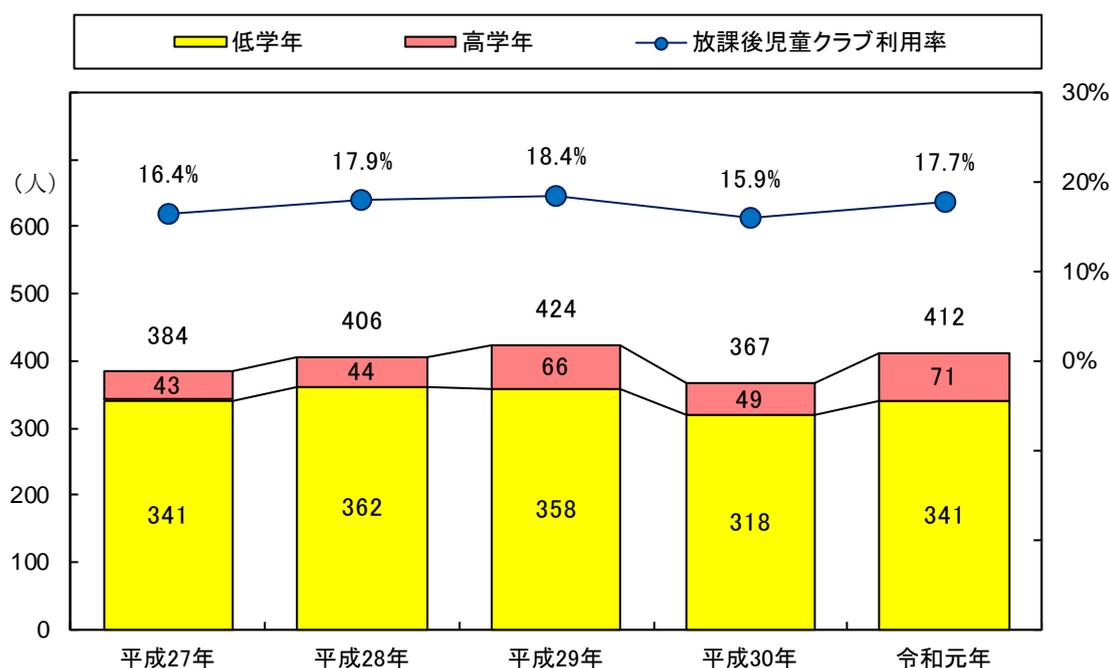
資料：島原市学校教育課

(4) 放課後児童クラブの利用状況

本市では、下校後保護者がいない小学生を対象とした放課後児童健全育成事業である放課後児童クラブ（学童クラブ）を市内 12 か所の保育所や認定こども園で実施しています（1年生から6年生まで対象）。

放課後児童クラブの利用者数は横ばいで、令和元年は低学年 341 人、高学年 71 人の合わせて 412 人となっています。

■放課後児童クラブの利用状況（各年5月1日現在）



※利用率は小学校児童数に占める利用者数割合

資料：島原市こども課

放課後児童クラブの利用状況（各年5月1日現在）

（単位：人）

区分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
低学年	341	362	358	318	341
高学年	43	44	66	49	71
合計	384	406	424	367	412
小学校児童数	2,340	2,274	2,307	2,311	2,330
利用率	16.4%	17.9%	18.4%	15.9%	17.7%

資料：島原市こども課

市内の放課後児童クラブ一覧（令和元年5月1日現在）

名称	定員	開所時間	校区
Seika学童クラブ 「Kidsぱんたか」	35	平日 13:00～18:00 土曜日 8:30～17:30	大三東小
恵祥保育園学童クラブ チューリップ	35	平日 14:00～18:00 土曜日 7:00～18:00	高野小
おさなご園 すくすくクラブ	25	平日 13:00～19:00 土曜日 7:00～19:00	三会小
学童ひかわおひさまクラブ	33	平日 12:00～18:00 土曜日 9:00～18:00	第一小
煌めきクラブ	38	平日 15:00～18:00 土曜日 8:00～18:00	第一小
島原幼稚園学童クラブ	28	平日 13:30～18:30 土曜日 7:30～18:30	第二小
こひつじなかよしクラブ	30	平日 12:00～18:00 土曜日 7:00～18:00	第二小
しゅんよう学童クラブ	50	平日 14:00～19:00 土曜日 7:00～19:00	第二小
わかくさ園学童 くるみクラブ	45	平日 12:00～18:00 土曜日 8:00～18:00	第三小
白山学童あおぞらクラブ	35	平日 14:00～18:00 土曜日 9:00～18:00	第三小
学童ちえなみクラブ	40	平日 15:00～18:00 土曜日 9:00～18:00	第四小
安中学童クラブ	43	平日 12:00～18:00 土曜日 7:00～18:00	第五小

※上記のほか、自主事業により実施しているクラブがあります。

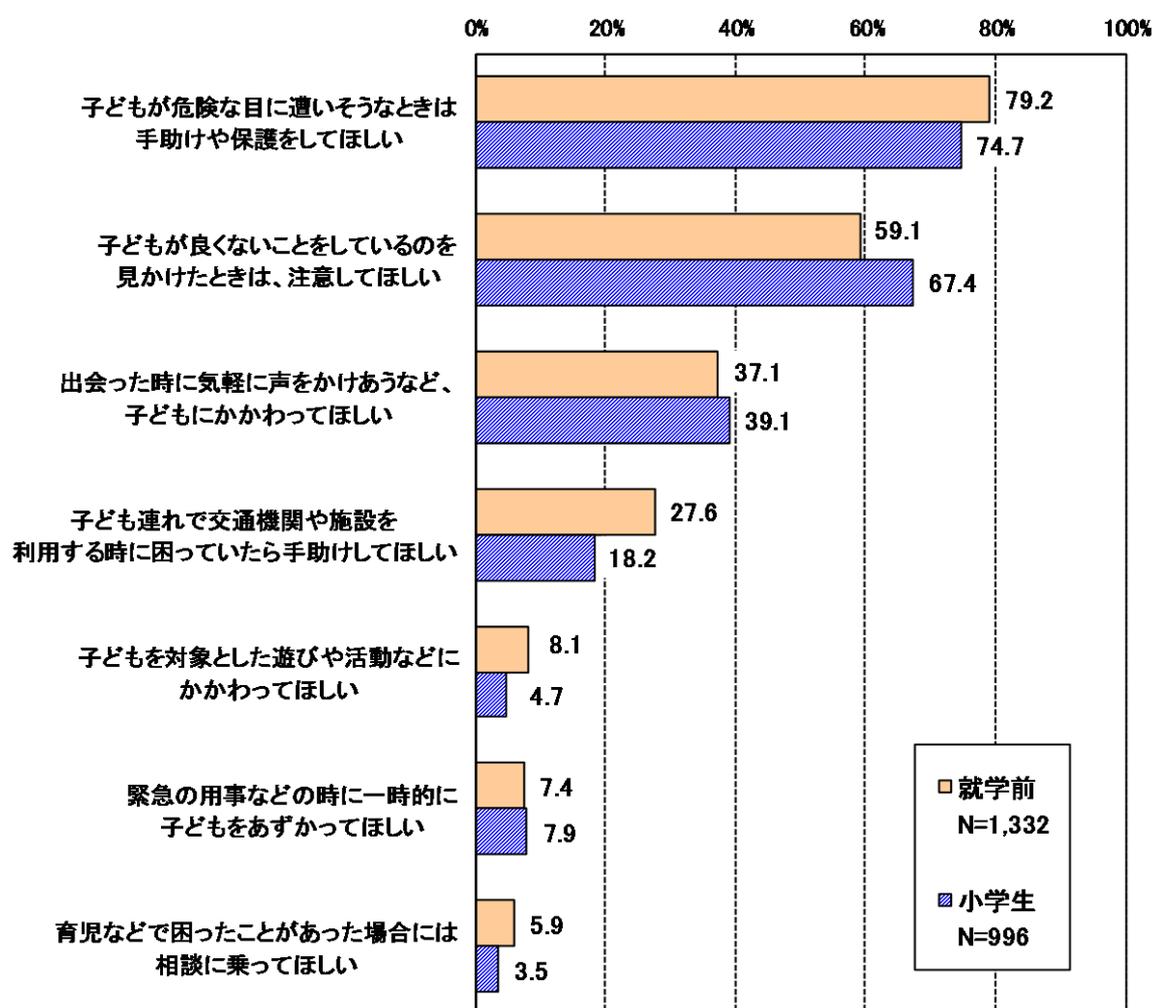
資料：島原市こども課

5 アンケート調査結果に見る子育て支援ニーズ

(1) 子育てをする上で、近所や地域に望むこと

子育てをする上で近所や地域に望むこととしては、「子どもが危険な目に遭いそうなときは手助けや保護をしてほしい」(就学前：79.2%、小学生：74.7%)が最も多く、以下、「子どもが良くないことをしているのを見かけたときは、注意してほしい」(就学前：59.1%、小学生：67.4%)、「出会った時に気軽に声をかけあうなど、子どもにかかわってほしい」(就学前：37.1%、小学生：39.1%)と続いています。

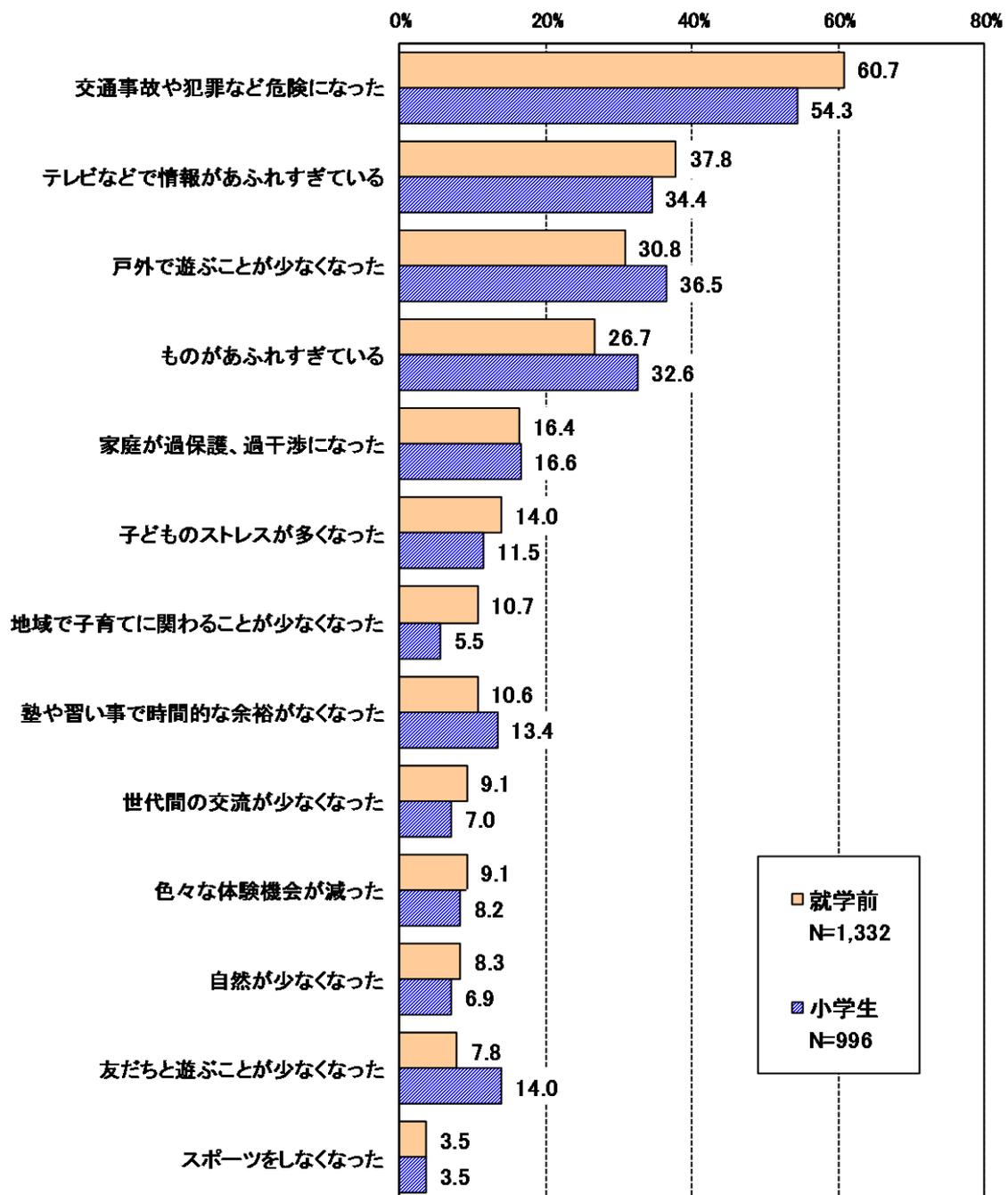
■子育てをする上で、近所や地域に望むこと



(2) 子どもを取り巻く環境で特に問題だと思うこと

子どもを取り巻く環境のなかで、特に問題だと思うこととしては、「交通事故や犯罪など危険になった」（就学前：60.7%、小学生：54.3%）が最も多く、次いで「テレビなどで情報があふれすぎている」（就学前：37.8%、小学生：34.4%）、「戸外で遊ぶことが少なくなった」（就学前：30.8%、小学生：36.5%）、「ものがあふれすぎている」（就学前：26.7%、小学生：32.6%）が上位にあがっています。

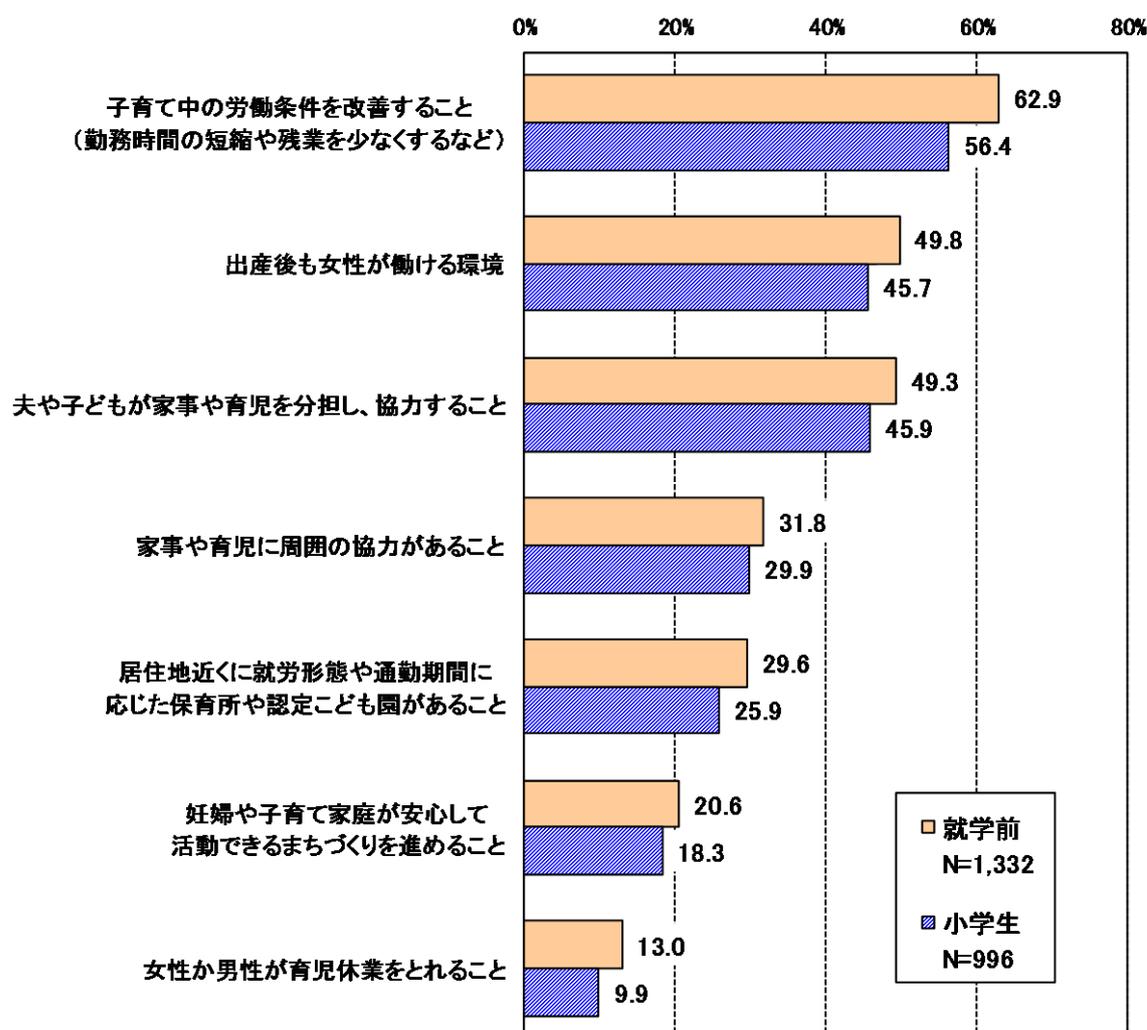
■子どもを取り巻く環境で特に問題だと思うこと



(3) 共働きで子育てするために必要なこと

共働きで子どもを育てるために必要なことについては、「子育て中の労働条件を改善すること」(就学前：62.9%、小学生：56.4%)が最も多く、以下、「出産後も女性が働ける環境」(就学前：49.8%、小学生：45.7%)、「夫や子どもが家事や育児を分担し、協力すること」(就学前：49.3%、小学生：45.9%)と続いています。

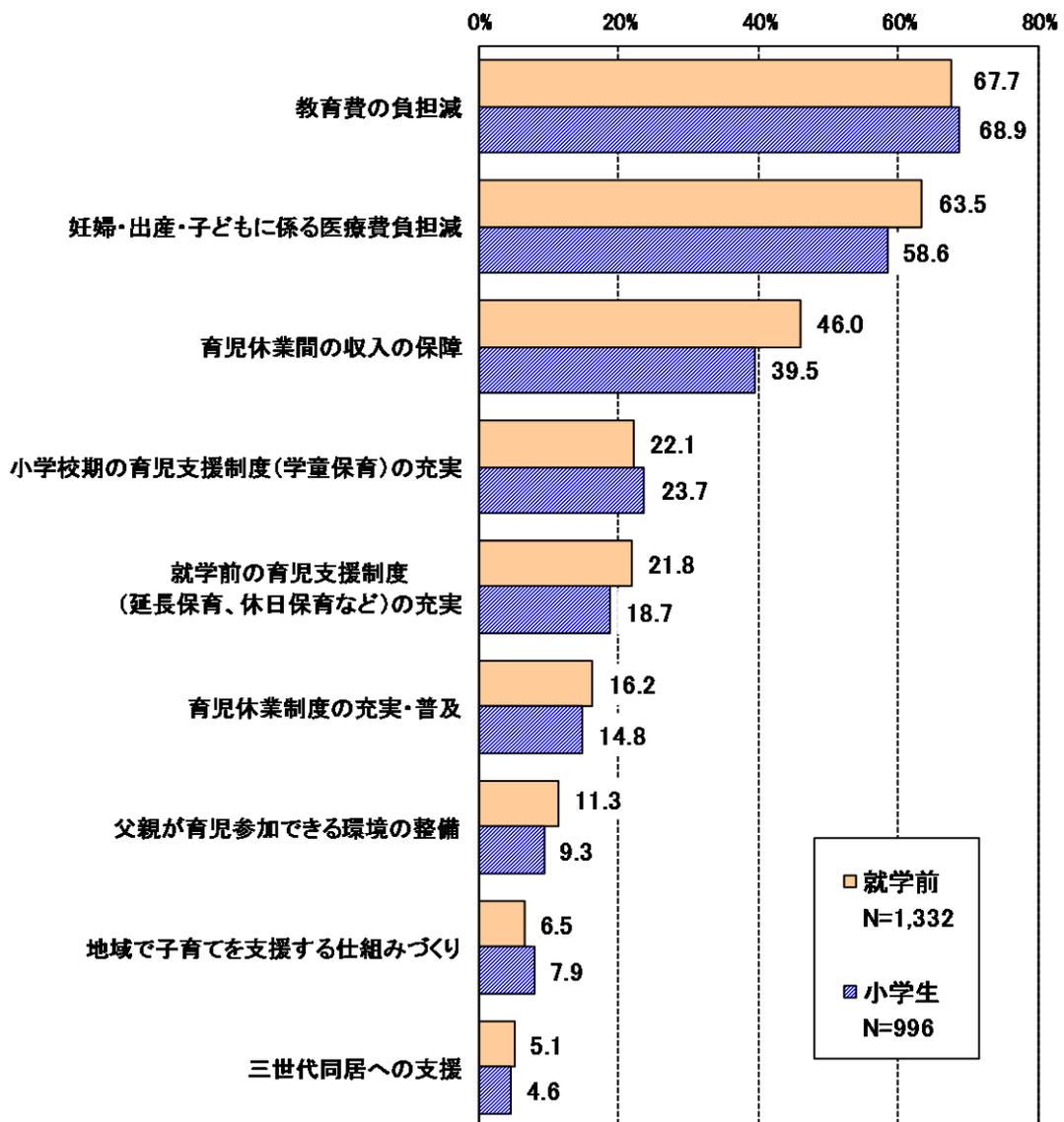
■共働きで子どもを育てるためにはどのようなことが必要だと思うか



(4) 「子どもを産みたい」と考えられるための施策

子育て中の保護者に、どのような対策が充実すれば「子どもを産みたい」と考えられるようになると思うか尋ねたところ、「教育費の負担減」(就学前：67.7%、小学生：68.9%)が最も多く、以下、「妊娠・出産・子どもに係る医療費負担減」(就学前：63.5%、小学生：58.6%)、「育児休業間の収入の保障」(就学前：46.0%、小学生：39.5%)と続いており、経済的な負担軽減を求める声が多くなっています。

■どのような対策が充実すれば「子どもを産みたい」と考えられるようになるか



(5) 市の子育て支援について特に期待すること

市に期待する子育て支援としては、「安心して子どもが医療機関を受診できる体制の整備」(就学前：64.9%、小学生：62.0%)、「保育所や認定こども園にかかる費用の軽減」(就学前：49.5%、小学生：30.1%)が上位にあがっています。

■市の子育て支援について特に期待すること

